

「第16回河川整備計画策定専門家委員会」議事概要

日時 令和4年11月2日(水) 14時00分～15時50分

場所 東京都庁第二本庁舎31階特別会議室24

出席委員(名簿順)	朝日 ちさと	東京都立大学都市環境学部教授
	小野 淳	東京都島しょ農林水産総合センター 振興企画室長
	小堀 洋美	東京都市大学環境学部特別教授
	谷川 章雄	早稲田大学人間科学学術院教授
	知花 武佳	東京大学大学院工学系研究科准教授
	土屋 十罔	前橋工科大学工学部名誉教授
	平林 由希子	芝浦工業大学工学部教授
	山田 正	中央大学研究開発機構教授

議事 (1) 都における河川整備計画の策定状況について
(2) 現場視察報告
(3) 築地川及び汐留川河川整備計画(原案)について
(4) 神田川流域河川整備計画(変更原案)について
(5) 今後の予定について

(1)「都における河川整備計画の策定状況」及び(2)「現場視察報告」について
→事務局より説明を行った。

(3)築地川及び汐留川河川整備計画(原案)、(4)神田川流域河川整備計画(変更原案)
について
→事務局より説明を行った。

以下は委員からの主な意見。

【築地川及び汐留川】

- ・環境保全については、浜離宮恩賜庭園の管理者である建設局公園緑地部とも連携して進めること。
- ・東日本大震災の際には多くの水門が地震や津波によって破壊されている。築地川水門や汐留川水門の耐震対策はどのような考え方で計画されているのか。
- ・高潮について、高潮浸水想定区域との考え方の違いは何か。

- ・ヘドロについて、他の自治体では浚渫ではなく、分解する装置を設置して対策を行っている。そういった事例を参考にすると良い。
- ・汐留川での耐震対策実施については、築地川と同様に浜離宮の護岸に配慮した修景を計画すべき。
- ・気候変動による海面上昇への対応について、本文に記載すべきではないのか。
- ・生態系の維持について、夏場は水温が上がると水中の酸素が少なくなり、エイ等に影響が出ることもある。そういったことも踏まえて、環境保全に取り組んでもらいたい。
- ・河川整備計画本文の図で凡例の追記等行い、分かりやすくすること。
- ・水質（COD）が H26 年度辺りから急激に改善している理由は何か。
- ・築地川の管理用通路については、河川区域以外で整備する部分が大半であるが、そこについて「整備を進める」と河川整備計画の中で記載して良いのか。

【神田川流域】

- ・下水部署と河川部署が同じ整備水準での整備を進めているが、整備状況にばらつきがある。下水道と河川が連携をすることが重要であり、浸水被害の原因が内水か外水かの検証や施設の稼働状況はどうであったか等、下水部署と河川部署で意見交換を行う必要がある。
- ・現在下水道は合流式ということから、一定以上の雨が降ると汚物が河川へ流入するが、この状況を改善していくことが必要である。
- ・今までは総合治水であったが、これからは流域治水の観点が重要だと考えている。
- ・昌平橋～水道橋の未整備区間について、事業者と連携し、景観への配慮を行っていく必要がある。
- ・地下に治水施設があることについて、知っている人が少ないと感じている。気候変動もあるので今後は一層意識してもらわなければならない。また地域インフラについて、横断的・包括的に管理する方向となっており、地域や河川の協力団体との連携を進めるためにも、施設の PR をしていくことが重要である。
- ・治水施設がどの程度効果を発揮したかも示していく必要がある。
- ・河川と下水道の連携が大事だと考えている。また住民への情報として、自分が住んでいる場所が合流式下水道なのか、分流式下水道なのかを周知していくことが大事と考えている。
- ・下水道幹線の沿川が浸水していることを踏まえて、今後は流域の問題として捉えていくことが重要だと考えている。
- ・外濠の「ほり」という漢字について、「濠」は史跡の場合は使用しないため、「堀」を用いること。
- ・外堀の石垣の箇所も防潮堤を作る計画となっているが、石垣の前面に防潮堤を作るのか。
- ・変更前と変更後の流量配分図の本川の流量が変わっていないのはなぜか。

- 日本橋川について、川の下に地下鉄が通っているので、L2 対応の防潮堤整備を行う際には、川底を確認しておく必要がある。
- 長期的には、日本橋川について水辺が見えるように、現在の背の高い防潮堤が必要かどうかは議論が必要である。
- 年超過確率 1/20 の規模の降雨が 1 時間あたり 75mm 以上とのことであるが、推計する際に使用したデータが平成 22 年までのものとなっている。雨の降り方も変わってきているため、最近のデータも考慮すべきではないか。
- 歴史的建築物を示す図について、「日本橋川周辺の」と追記した方が良いとともに、赤字箇所を見やすくした方が良い。
- パブリックコメントへの回答案については、誤解のないように表現を精査した方が良い。

(5) 今後の予定について

→事務局より説明を行った。

(以上)